

日本基督教団 東中国教区ニュース

NEWS

東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒170-0045
倉敷市鶴形一五五
倉敷キリスト会館内
TEL 086-421-1780

メッセージ

「誕生から十字架へ」

岡山博愛会教会 牧師 渡辺 真一



「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また反対を受けるしるしとして定められています。」

(ルカによる福音書二章三四節)

人

との関わりのなかにある理不尽さ。また、人の営みすらも超えた不条理さ。日常の中で私たちは大なり小なり理不尽・不条理な事柄に出会うことかと思えます。些細

なことであれば受け流すこともできるものです。しかし、非常に厳しいものが突き付けられる時、神に対して「なぜですか」「どうしてですか」と問うこともあるのではないのでしょうか。本当に神がいるならどうしてこんな現実をもたらしのか、とどれほどの数の人が真剣に問うてきたことでしょうか。希望が絶たれる限界的な状況で「もはや神などいない」と嘆くとき、神が近くですべてを守っていたとしても、その嘆く人にとっては神不在の場と言えるかもしれません。

シメオンは幼子イエスとの出会いを通して神の救いを確信します。そしてシメオンは幼子の母マリアに語りかけます。救い主となるこの幼子はイスラエルの人々から敵対されることになる。御子の命の始まりだけでなく、人々から拒絶され十字架の死へと続く姿をシメオンは同時に見つめ、そこにある救いの光を受け止めていたのです。

飼い葉桶に寝かされた幼子。それは人間として生まれてくるにふさわしくない場所であり、祝福とはかけ離れた現実を物語ります。

目次

メッセージ「誕生から十字架へ」	1
二〇一八年度 第一回宣教会議開催	2
「宣教構想懇談会」の報告を受けての懇談会	3
第十〇回教区の集い 主題講演	4
第四回 日本基督教団総会報告	6
教会紹介 岡山教会	7
「こんにちは」のお部屋・いむずかふえ	8

そして十字架につけられるイエス。それは人間として命を終えるにふさわしくない場所であり、呪われ神に捨てられた者を意味します。救い主の誕生と死。そこには一貫して人間としての不条理を背負われたイエスの姿が描かれています。

不条理に対する「なぜ」という私たちの問いに、答えではなく、命のすべてをもつて背負い応えてくださった方がキリスト・イエスであることを聖書は伝えていきます。神などいないと嘆かざるを得ない、その同じ苦悩の場にキリスト・イエスは生まれ死んでいかれたのです。神不在のなかに神の子が存在する。もはや神などいないと思わざるを得ない不条理と絶望のただなかに、神の子がいる。その場所からキリスト・イエスは救いを宣言してくださっていること。復活の業が真に希望となつて示されていること。私たちのために示された確かなる神の愛を憶えて、希望を携えて歩みたいと願っています。

二〇一八年度

第一回宣教会議開催

十一月五日 天城教会

教区総会議長報告

岡山教会 大塚 忍

東中国教区は五月二八日～二九日にかけて開催された教区総会において、常置委員会提案の「東中国教区二〇一七年度宣教会議声明」を承認しました。現在、教区には四七の教会が立てられています。二〇一六年度実績で三三の教会では礼拝出席の平均が二〇名以下、そのうち一四教会では礼拝出席平均が一〇名以下、経常予算では経常収入四〇〇万円以下の教会が二四教会あります。総会では、この現状から見えてくる課題を共に担うために準備を進めていくことを承認していただきました。

総会後、常置委員会では今後の展開について協議し、議長が招集者となり六地区の代表の方々と交えて「宣教構想懇談会」を開催することを決定しました。「宣教構想懇談会」は十月十日真庭市久世「風曜日」で行われました。参加者の方々から教区が今後取り組むべき事柄について意見が出されました。教区機構の見直しについて（一教会一牧師による宣教）、教会強化特別資金について（見直し、宣教計画の提出）、地区構成の見直し（地区の再編）等、

活発な意見が出されました。

今年度の第一回の宣教会議は、宣教構想懇談会の報告を受けた内容で、十一月五日天城教会で行われました。参加者は三役、各部委員長、地区長。議長の報告を踏まえながら、提出された課題について協議が行われました。地区の再編については、形式的に行うのではなく、二つの地区の集会等に参加し、状況を見極めながら行っていくのが良いのではないかと。地区の役割を見直すと共に、宣教部の中に教区の活動を推進する担当部署を置き、企画を作成し、その後実行委員会を招集してはどうか、という新しい



大塚忍 教区総会議長

発想による提案も出されました。また、一教会一牧師体制の見直しについても意見が出されましたが、小規模教会にこの考え方を強いるものであってはならないこと、教区内に立てられている教会の宣教を支えるためのものでなければならぬとの意見も出されました。教会強化特別資金については、これまでの修正なのか、新しい制度の構築なのかを明確にすべきとの意見が出されました。

宣教構想懇談会、宣教会議に参加されていない方々との意思の疎通、課題を共有するために、今後常置委員が地区を訪ね意見交換を行う予定です。



「宣教構想懇談会」の報告を受けての懇談会

信徒常置委員

光明園家族教会 難波幸矢

十一月五日、天城教会において、先の定期教区総会で可決された議案一〇号「東中国教区の宣教強化実質化に関する件」を具体化させるために、十月十日に持たれた「宣教構想懇談会」の記録をもとに宣教会議が開かれました。



宣教会議の様子 天城教会にて

初めに東中国教区の現況報告がなされ、次いで①教区機構の見直しや②教会強化特別資金③地区構成の見直し④教区に求めること、そして最後に、懇談会を終えてと。懇談された事柄が丁寧に分類報告されていて、参加者一同一目ごとに意見が述べられました。

①では、一教会一牧師について、牧師には常駐してほしいという意見から、これまでの体制、体質の意識改革（例えば三教会二牧師）が必要ではないかという意見まで様々記録されていました。また教師の精神的ケアについてはカウンセリングを受ける体制が必要との意見もありました。

②では、見直す時期が来ているという意見から、強化費を受けている教会は自立する明確なビジョンを提出して頂きたいとか、特別資金に対する信頼関係が成立していない、強化費に依存するのではなく牧師に教会外の仕事をしして頂く、など大変厳しい意見が多かったように思います。

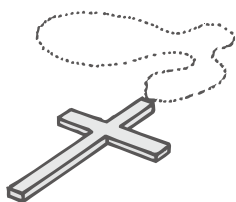
③では、新しい地区構成を考えるべき時が来ているという意見がありました。岡山北部は鳥取西部との合併も可能とか、地区と教区の集会内容が類似していることがあるので整理するようにとの意見がありました。

④では、教区の役割を明確にしてほしい。教

区は宣教するのか、教会が宣教するのではないのかなどの意見のほか、報告書だけでなく教会を訪ねてほしい、宣教の困難さを感じている教会を潰すのではなく共に考えて!!とありました。

まさにこのために宣教構想懇談会を開いたのだと確認し、皆さんの意見から逼迫したものを感じました。危機感を持ってこそ新しい構想へと導かれるのだと思います。

この報告書を読むまでは、お尻に火がついているのにまるでよそ事のような反応に疑問を持っていたのですが、そうではありませんでした。「動く」という振動を感じました。これまでのやり方の修正ではなく、共同牧会など、変わるのだという積極的な行動へと誘われていく予感を感じました。ひたすら「この世的安堵ではなく、神からの平安」を伝える群れとしての教会の形づくりに邁進したいものです。



第一〇回教区の集い 主 題 講 演

二〇一八年一〇月七日(日)～八日(月)、
榎本栄次牧師(学校法人敬和学園理事長・東
中国教区教会支援事業協力牧師・教団隠退教
師)を講師にお迎えし、鳥取市にあるレーク
大樹を会場にして「第一〇回教区の集い」が
開催されました。ここにその主題講演の要旨
を榎本先生ご自身のまとめによりお届けいた
します。

☆ ☆ ☆

講演

「キリスト者の生と死」

命にあずかること」

牧師 榎本栄次

聖書

マルコによる福音書 八章二七～三八節

福音は大きな喜びであり、生きる力です。
永遠の命とはわたしたちがいつまでも死なな
いということではなく、永遠のものに繋がる
ことです。



榎本栄次先生の講演を聴く

イエスと弟子たちは、エルサレムに向か
う旅に出ます(マルコ八・二七～一〇・五二)。
旅の途中で主イエスは三度、受難予告をして
います(マルコ八・三一、九・三一、一〇・三二)。
「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、
祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、
三日の後に復活することになっている」と。
これに対して受難予告を聞いた弟子たちの
姿はどうでしょう。

ペトロは戸惑い、イエスを脇へ引き寄せ「主
よ、とんでもないことです」といさめました
(マルコ八・三二以下)。二度目には、「だれ
が一番偉いのか」と互いに論じ合っていました
(マルコ九・三三以下)。三度目は、ヤコブ
とヨハネが「栄光をお受けになるとき、わた
しどもの一人をあなたの右に、もう一人を左
に座らせてください」と願いました。これを
知った他の弟子たちは憤慨しています(マル
コ一〇・三五以下)。

このように、弟子たちは永遠の命を自分た
ちの命の延長線上に考えていたようです。弟
子たちにとって、救い主メシアはこの世での
勝利者、賢者、王であるダビデの子でなけれ
ばなりませんでした。

それに対しイエスは「自分の十字架を背
負ってわたしに従え」と言われます。ペトロ
には「サタン、引き下がれ。あなたは神のこ
とを思わないで、人のことを思っている」と
叱り、また「偉くなりたいと思う者は僕とな
りなさい」と諭します。子どもたちを祝福し
て「神の国はこのような者たちのものではあ
る」と教えました。

旅の終わりには、ユダの裏切りをはじめ弟
子たちの離反を目の当たりにします。「あな
たがたがわたしを選んだのではない。わたし



教区の集い 夕食

があなたの方を選んだ」(ヨハネ一五・一六)は
ずの弟子たちの中からユダの裏切りです。そ
れではイエスはミスカストをしたのでしょ
うか。マルコ福音書ではユダについて、「十二
人の中のひとりユダ」という表現をしていま
す。これは清く正しい十一人の弟子ではなく
みんなの中にその弱さがあることを意味して
います。そして最後の晩餐ではユダも含めて
弟子たちにパンを割き葡萄酒を与えました。
「わがうちにユダのいるのを知りつつも パ
ンを浸しつわれに渡す主」。

この時の主はどん底の悲しみを経験してお

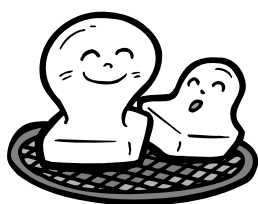
られました。その悲しみがイエスを「ゲッセ
マネの祈り」へと導き、「わたしは死ぬばか
りに悲しい」と言い、「アッバ、父よ、・こ
の杯をわたしから取り除けてください。しか
しわたしは願うことではなく、御心に適うこ
とが行われますように」(マルコ一四・三六)
と祈られました。イエスの悲しみの原因は
迫っている十字架刑もさることながら、ユダ
をはじめ、弟子たちの裏切りではなかったで
しょうか。矛盾に満ちたどん底です。その悲
しみを神様のところに持っていけました。
これが命です。

イエスの示した「生きること」とはこのこ
とだと思えます。どん底の中で「しかし御心
を」と祈ることでしょう。そこに新しい命が
あります。十字架をどこかに置いて綺麗に
なつて従うのではない。罪を共に担う十字架
の主こそがメシアの姿であり、生きること
でした。神にお任せするのです。「逃れの町」(民
数記三五章)に逃れるのです。主もまた神に
そうなさったのです。矛盾を背負って主のと
ころに行くのです。

私たちの神は関係の神です。伝道は人の冷
たさや熱さが伝わる熱伝導でなければなりま
せん。信仰は精巧なロボットになることでは
ありません。生きる命です。主と共に生きる

ことです。「人間の豊かさは不完全さの中に
ある」(ポール・ノフラー著「デザイナー・
ベビー」訳者…中山潤二)そこで「わたしは
あなたの神となる」(創世記一七・九)のです。
神の国はユダのいない「清い」「正しい」
国ではなく、自分の罪を背負いながら命が絶
ち切られる、その向こうからやってくる永遠
の命につながることです。

キリスト者は、「イエスは主なり」のご紋
をかざすのです。それは相手に対してではな
く、自分に対してです。「静まってわたしが
神であることを知れ」(詩編四六・一一、マル
コ四・三九)そこに永遠の命、新しい命があ
ります。生から死ではなく、死から生へ。「主
に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して
無駄にならないことを、あなた方は知っ
ているはず」(第一コリント一五・五八)。
大きな喜びがそこにはあります。



第四一回

日本基督教団総会報告

十月三日～五日

会場 東京・池袋ホテルメトロポリタン

☆ ☆ ☆

「教団総会に行つて来ました」

総社教会 信徒 土井しのぶ

教団総会の議事日程には四九議案が組まれていました。二〇一六年総会で多くの反対意見の中、「伝道資金」が決議され、東中国教区も苦渋の選択の末、二〇一七年から同資金を受け入れました。しかし、この制度は、単年度ごとの申請と審査で不安定な上、条件付きで予算計画が立てにくいものです。今回、伝道資金関連の議案が九州、西中国の両教区から提出され、制度見直しの議論に期待しましたが、審議時間は乏しく賛成少数で否決でした。



東中国教区議員団

神奈川教区提案の「北村慈郎教師の免職戒規撤廃を求める件」は議長「上程不可」宣言でした。また「聖餐のあり方について慎重にかつ十分に議論する場を教団内に設置する件」は賛成少数で否決でした。西中国教区提案の「天皇代替わり儀式に公費を支出することに反対する声明」に関する件は三二四人中賛成二〇五票で可決しました。

また、総会に沖縄教区が欠けた状態が八期一六年も続くという異常事態に対しての議案が兵庫、西中国教区と、議員提案で出されましたが、賛成少数で否決と時間切れ廃案でした。終了時、時間切れ廃案は一〇議案でした。

私自身が深く考えさせられたことは「多数決」への固執の問題です。真摯な話し合いをし尽くす姿勢を私たちの課題として目指したいと思いました。主が立てられ愛されている「教団」が、主のみに添い、導きの下に歩めますようにと祈ります。

「全教団的議長誕生」

蕃山町教会 信徒 河田直子

今総会で特筆すべきは、議長・副議長選挙結果である。双方とも一回目選挙では過半数を取る当選者が出ず、第二回投票を行い、議長に石橋秀雄前議長、副議長に久世そらち北海教区議長が選出された。特に、議長選では、第一回投票で三位（八五票）であった石橋師が二位の久世師（一三五票）の得票数をほぼ得る形で、過半数の一八八票を得て選出されたことは、まさに全教団的議長として選認されたと言える。



開会を宣言する議長団

現在の教団を二分させているいわゆる「北村教師問題」について、その戒規決定に対する不服申立の上告審判委員会において上告を退けた委員長であった石橋師を、今後二年間の教団議長にふさわしいと議場が認めたことに他ならない。執行部批判の立場であられた久世師を副議長とし、雲然俊美師を書記に再選して三役を決定した四一総会期は、一致して山積する問題を議しながら伝道に前進していけることを期待したい。

様々な人間的思惑や画策があったとしても、「あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え」てくださるとの御言葉を信じ、日本基督教団がただ主の栄光のために、公同の教会として主に仕えていくことができるよう、切に祈りたい。なお、当教区から信徒常議員として土井しのぶ姉と河田が選出された。祈りでお支えいただきたいと願う。

教会紹介

・湖山教会・

「もつとも小さい者たち」

△鳥取の ガリラヤ湖なり 湖山池△

牧師 森嶋 道



湖山教会とひかりこども園

勝手に歌を作ってしまったが、湖山教会の森嶋です。湖山という地は、自然と闘いながら命を守って来た奇跡の地、その一つだと思っています。すぐ近くにある湖山池は日本最大の

池ですが、聞いた話では湖にすると琵琶湖に負けるから、湖という字が付きながら池と呼ぶようになったとか。やはり、誇るものが一つは欲しいですね。

湖山教会の愛唱讃美歌は「ゆけども ゆけども」(讃美歌二一 四三七番)です。この歌詞のように教会が生まれた頃は砂地が広がり、JRの線路が走っているだけだったそうです。教会の三〇周年誌にはタイトルとして「砂地に種を蒔いて」と付けられているほど、この土地で生きることは物理的に厳しく、その上でキリスト教を伝える中で多くの苦難が待っていました。しかし、不思議なことに四人の女性信徒から教会が始まり、同時に、子どもたちを保育していく働きにも目覚めていきます。彼女たちが一致団結することになった土台となる聖句はこれです。

「また、はつきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」(マタイによる福音書一八章一九〜二〇節)

私が鳥取に来た時のことを思い出します。地方への漠然とした不安が起こり、最も人口が少ない県という言葉聞いて伝道する自信が揺らいでいました。初めてのクリスマスを迎えた時のこと、聖書「ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で決していちばん

小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。」を読んでハッとしました。この鳥取こそ、ベツレヘムだと。この鳥取から希望を担う人々が生まれてくると信じ、神さまに励まされたいと感じました。

湖山池をガリラヤ湖に重ねながら、キリストがこの地にもおられて、福音を語り、新しい風を送ってくださいと。湖山だけでなく、鳥取にある教会が、その風を受けとめ、希望の帆を張って進んでいく姿が、暁(まぶた)の裏に映ります。



春の交流会の様子

「こんにちは」のお部屋

いむずかふえ

倉敷教会 伝道師 林 明奎

度々「『いむずかふえ』って何なの？」と尋ねられます。二〇一七年四月から倉敷教会に着任した私に、主任の中井牧師から「中井とイムの牧会カフェ」を設けることと「イムズカフェ」という呼び名が提案されました。すぐに私はそれに賛同し、「いむずかふえ」という優しい書き方を考えたのです。二人は、時間は土曜日の午後五〜八時、場所は倉敷教会のキリスト会館一階喫茶シャロンと決めましたが、教会役員会の了承を得ないといけませんでした。役員のほうからいむずかふえの目的や衛生管理、会計などはどのようにするのか質問が出され、議論が続けられました。結局、「コーヒー代無料」を私が提案して役員会承認の上でいむずかふえがめでたくスタートしたのです。

実際のところ、毎週土曜日の午後は、牧師と伝道師にとって主日礼拝準備のための貴重な時間です。翌日の朝礼拝説教が当たっている場合はイライラすることもあります。しかし昨年の五月から今まで毎週土曜日、常にいむずかふえが続いていることを主に感謝します。どなたでも毎週土曜日のいむずかふえに参加できます。来られた方々は自家焙煎と挽きたてのコーヒーを味わいながらどんなお話もできますし、時々美味しい差し入れやお土産も楽しむことができます。非常に暑かった

今年の夏には水出しコーヒーを提供する工夫もしました。

昨年九月、いむずかふえから「イムズミュージック」というプロジェクトも誕生しました。「イムズミュージック」は、毎月一回土曜日の午後四〜六時、キリスト会館一階大ホールで開催されます。それは、特にコミュニケーションが苦手な人、ストレスを感じている人、新しい自分と出会いたい人、音楽が好きな人、詩を作るのが好きな人などが楽器と音楽を楽しむ集まりです。もちろん、「イムズミュージック」にどなたでも参加歓迎です。その集まりが終わってからは、いむずかふえと合流して、共におしゃべりを楽しみます。

一杯のコーヒーには約六〇粒のコーヒー豆が



「いむずかふえ」へようこそ

入りますが、飲むたびに、収穫のため汗を流してくれたコーヒー農場労働者を覚えて感謝しましょう。私は、一杯のコーヒーを通して福音宣教の働きにつながることを何よりうれしく思います。最近、いむずかふえだけではなく他の集会や行事などの場合にもコーヒーをもてなしする奉仕が増えて、さらに忙しくなりました。教会の伝道者なのに、説教の準備よりコーヒーの準備に熱心な自分に気づく時もあります。それでも主に感謝しながら喜んでコーヒーの奉仕を続けたいのです。教区のみなさま、倉敷教会のいむずかふえにどうぞおいでください！

編集後記

例年よりも少し遅れて新春の発行となった一七二号です。六ページには、秋の日本基督教団総会に出席されたお二人の信徒の方による、それぞれの視点に立つご報告を頂きました。以下は、同じく教団総会に出席された上井教会の田中英也さんの句を番外編として紹介します。

第一日 主を仰ぐとも対立の秋深し

第二日 主の目線どこにあるのか冬隣

第三日 教団の未来へ希望祈る

新しい年も、東中国教区の息吹を教会の皆さまに感じて頂ける誌面作りに仕えて参ります。お祈りとご協力をよろしくお願いいたします。(G 記)

★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時〜午後九時
電話番号 ○九〇ー一三三〇ー一八七三〇